

5月16日、緊急事態措置が大阪モデルを踏まえて一部解除されました。

【赤:警戒レベル】



【黄:注意喚起レベル】



【緑:基準内】



1. 「新型コロナウイルス相談窓口」に相談する基準が変わりました (5/8 厚生労働省) **New!**

次の症状がある方は下記を目安に「帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。

○ 少なくとも以下のいずれかに該当する場合には、すぐに御相談ください。

(これらに該当しない場合の相談も可能です。)

☆ 息苦しさ (呼吸困難)、強いだるさ (倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合

☆ 重症化しやすい方 (※) で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

(※) 高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患 (COPD 等) 等の基礎疾患がある方や透析を受けておられる方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いておられる方

○ 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合

(症状が4日以上続く場合は必ずご相談ください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに相談してください。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様です。)

堺市 新型コロナ受診相談センター

【電話番号】 072-228-0239

【受付時間】 午前9時から午後8時 (月曜～金曜)

午前9時から午後5時30分 (土曜・日曜・祝日)

その他の自治体の連絡先は先月号のミタクリ通信等でご確認ください

## 2. 大阪での制限が徐々に解除されますが、**クリニックの対応は解除しません。**

待合室混雑緩和と感染防止に、より一層取り組んでまいります。

- ・調子の悪い方は先に電話でご相談ください（予約で来院の時も同じです）。

医師の判断で、一般の患者さんと違う時間帯を指定、空間を分けて診察させていただく場合があります。

- ・いつもの通院の方も、**マスク着用**で、入り口で**手の消毒**と**体温測定**をお願いします。
- ・待合室も、引き続き距離をあけて座っていただきます。
- ・院内の血液迅速検査は待合室の混雑を避けるため制限しています。（検査結果待ちで時間がかかる場合はウォーキングにでてくださいようお願いする場合があります。）
- ・診察も今までのように1回に時間をかけられないかもしれません。
- ・**New!** 「**当日臨時(予約外)の受診の方は、医師の指定ができなくなります**」ただし、診察する医師が一人の時は、臨時の方をお受けすることが難しい場合もあることを、予めご了承ください。

いままでは予約枠がいっぱいでも「長時間お待たせするかもしれないけど、診察しますね」がミタクリの方針でした。しかし新型コロナ感染対策で「待合室で長時間お待たせする」は避けねばなりません。空いている方の医師が診察をします。希望の医師がある場合は必ず予約をお願いします。またキャンセルの場合はできるだけ早く連絡を下さい。その枠を受診したい患者さんにお譲り下さい。

## 3. アルコール消毒液がやっと入荷しました

消毒用アルコール綿花の欠品で自己注射の方にご迷惑をおかけしております。「アルコール消毒液」が、やっと入手できました。何らかの形でお渡しできるように準備しますので少々お待ちください。

### 【欣子先生より一言】



外来の混雑緩和と感染予防のため、オンライン診療（電話・テレビ電話）を導入しました。本当はしたくありません。うちのクリニックは医師3人も、五感+第六感？を駆使して医療をしています。それは自慢です！（笑）患者さんが入って来られた時の雰囲気、歩き方などから診察は始まっています。それが、電話は声だけで判断です。テレビ電話は画像で診察になりますが、例えば舌の形はわかって、色も雰囲気もわからないのです・・・当然脈も取れないし胸の音も聞けない。診察室で、息遣いがおかしいけど「元気です」という人の脈をとって、あれ？おかしいから心電図とろうっと！わっ！不整脈！！といったこと

が全くできません。厚生労働省は新型コロナ対策で、この期間だけオンラインの初診診療を許可したんですよ・・・かかりつけで長いこと診ていても恐る恐るオンライン診療をするのに、初診なんて絶対無理！というわけで、うちのクリニックではかかりつけで、**かつ、いまなら大丈夫だろうと思える患者さん**だけです（笑）。診療報酬改定があり、機器使用料等がかかりますので、来院するよりちょっとだけ自己負担が高くなりますが、待合で待ちたくない・子供を連れて通院大変・遠方や仕事で通うのが大変という方にはいいかなと思います。

テレビ電話の方は、模擬患者として、うちの両親（70歳代後半）を診察しました。まずアプリを取り込んで色々入力するところが大変で、近所に住む弟が全ての設定をしてくれたので会話するところまでたどり着きましたが、「飲んでる薬を見せて」というと「え～どこやったかな～（とウロウロ）」。やっぱり若い人がそばにいてテキパキ対応してくれないと難しいです。でも、ご家族さんが近くでサポートしてくれるなら、私たちの指導を見てもらったり逆に、ご家族さんに質問できたりと使い方によっては、いままでできにくかったことができるようになる可能性もありますね。

第一号の患者さんは、いま仕事で遠くにいたのでテレビ電話を選択してくれたのですが、「こんなところに住んでるんですよ」と、スマホを移動させて部屋から窓の外を見せてくれて、ああ、こんな海が見えるのどかなところにお住まいなんだなど、診察室では見えない「住環境が見える化する」という貴重な体験をしました。そう、環境もミタクリの医療の対象ですので、私たちにとってはメリットです。当面、試行錯誤をしていきますのでよろしくお願いします。